

COLLECTION EXHIBITION



アリスティド・マイヨール
「フェルディナンドの動物園」より
1937-1944年
広島県立美術館蔵



吉原東洋
原典集「マンドリン・ブレイ」 猫の顔
1979(昭和54)年
広島県立美術館蔵

サマーミュージアム
アニマル&
モンスター
A-Z



清水東山
《銀金具付 小児用手鏡》
1939(昭和14)年
広島県立美術館蔵



橋本龍村《鬼神図》(左)
1895(明治28)年
広島県立美術館蔵



橋本龍村《鬼神図》(左)
1895(明治28)年
広島県立美術館蔵

Summer Museum,
Animals and
Monsters, A-Z



三沢輝彦《Animal 2008-04》
2008年 広島県立美術館蔵(寄託)
撮影:内田淳子
©Atsuhiko Misawa, Courtesy of
Nishimura Gallery

2026 7 24 金 → 10 12 月 祝

〔開館時間〕9:00～17:00 ※入場は開館の30分前まで
※9月23日までの金曜日は20:00まで開館/9月24日からの金曜日は19:00まで開館
〔休館日〕9月28日(月)、8月31日(月)は展示替のため閉室
〔入館料〕一般510(410)円/大学生310(250)円 ※()内は20名以上の団体
〔縮景園共通券〕一般660円/大学生350円 ※特別展は別料金
○高校生以下無料 ○当館で開催中の特別展入館券にて無料でご覧いただけます。
○障害者手帳をお持ちの方や65才以上の方、県内の大学に在学する留学生の方などは無料(1階総合受付でお申し出ください)。

フリートークデー

自由な感想を話しながら
展覧会を楽しもう！
8 16 日
9 20 日

所蔵作品展

第 2 期



広島県立美術館
Hiroshima Prefectural Art Museum

2階展示室

〒730-0014 広島市南区 本町2-22
tel.082-233-4246 fax.082-233-1444

<https://www.hpam.jp/>



【概要】

所蔵作品展第2期

「サマーミュージアム アニマル&モンスター A-Z」

1968（昭和 43）年に開館した広島県立美術館は、1996（平成 8）年に現在の建物に生まれ変わり、所蔵作品展と特別展という両輪によって美術の魅力を発信しています。

当館は開館以来、多くの方々のご協力を得てコレクションを充実させてまいりました。収集重点方針として「広島県ゆかりの美術」「1920～30年代の美術」「日本およびアジアの工芸」を掲げ、現在は総数5,400点を超えています。

さて、今期の所蔵作品展は、本県ゆかりの巨匠を一望できる「ウェルカムギャラリー」と、恒例となりましたサマーミュージアム「アニマル&モンスター A-Z」の2本立てとし、当館コレクションを新たな視点でご紹介いたします。

セルフワークシートをガイドとして所蔵作品展を探検してお気に入りの作品と出会い、参加型ワークショップ「みんなでつくるぬりえ動物園」もお楽しみください。さらにリレートーク、インスタグラムのライブ配信といった関連イベントも開催しつつ、さまざまな角度から当館コレクションの魅力を発信します。また、毎月第3日曜日のフリートークデーも継続いたします。

ご来館のたびに新しい美の魅力を発見し、心と癒やされる展示をめざし、努力を重ねてまいります。今後の当館の活動にもご期待ください。

【第Ⅰ展示室】

第Ⅰ室 アニマル&モンスター A-Z ～ 西洋美術

この展示室では、西洋美術の作品を中心に、アニマルやモンスターに関連する作品をご紹介します。本展示では、17世紀オランダ絵画の巨匠、レンブラント・ファン・レインが宗教画に描き出した羊や、画家であり彫刻家でもあったマックス・エルンストが事物の凹凸を写し取って表現した鳥や馬など、多様な生きものが登場する版画をご覧ください。時代や版画技法の違いによって、生きものの様子はどのように変化して見えるでしょうか。さらに、ユニークな等身大の動物木彫で知られる三沢厚彦^{みさわあつひこ}による作品は、他作家の木版画と共鳴しています。

また、シュルレアリスムを代表するスペインの作家、サルバドール・ダリの作品には、^{あり}蟻やロブスターなどの生きものに加え、引き出しのついた人物や燃えるキリンなど超現実的なモチーフも登場します。抽象彫刻で知られるヘンリー・ムーアの素描や、意外な事物を組み合わせる作品を創造したルネ・マグリットの絵画に生きものはいませんが、不思議な気配を感じられるでしょう。西洋美術におけるアニマル&モンスターとの出会いを、ぜひお楽しみください。



三沢厚彦《Animal 2008-04》2008 年
広島県立美術館（寄託） 撮影：内田芳孝
©Atsuhiko Misawa, Courtesy of Nishimura Gallery

【第2展示室】

第2室 アニマル&モンスター A-Z ～ 日本洋画&彫刻

この展示室では、私たちの身近な動物から、^{じんち}人知を超える^{あやかし}妖の存在まで、多彩な生命表現が見られる油彩画、版画、彫刻作品をご紹介します。

動物の持つ様々な性質は、多くの作家を惹きつけ、創作の源泉となってきました。力強さや逞しさ、^{たくま}精悍さなどを伝える野性味。一方で、本能そのままの^{むく}無垢な仕草には、親しみや愛らしさを感じることもできるでしょう。広島県尾道市出身の版画家・^{よしはらひでお}吉原英雄は、洗練された構図と色彩を用いて動物の姿を生き生きと表現し、等身大の動物彫刻で知られる^{みさわあつひこ}三沢厚彦は、ユーモラスで人間味を感じさせるチーターを生み出しています。また、^{いのうえちやうさぶろう}井上長三郎の《屠殺場》や、^{ない まき}名井萬亀の《地獄の港》は、人間の心情を^{むこ}無辜の存在である動物に託して表現することで、社会不安や戦争の惨劇の苛烈さをより切実に伝えているといっよいでしょう。

リアルな存在感を持つ動物の描写はもちろん、^{あいみつ あくたがわひさし つるおかまさ お}愛みつや芥川永、鶴岡政男らの作品に見る想像上の生きものなど、ユニークな造形も見どころです。どうぞごゆっくりご覧ください。



吉原英雄 版画集『ペットショップ』より 蟻の観察
1979（昭和54）年

【第3展示室】

第3室 アニマル&モンスター A-Z ～ 日本画

この展示室では、アニマル&モンスターが登場する日本画の作品を中心にご覧いただきます。

日本画には多彩な題材がありますが、モンスターと聞いて思い浮かぶものとして、龍や虎、唐獅子、鬼などが挙げられます。龍は雨を呼び、虎は風を起こすと考えられた霊獣であり、唐獅子や鬼は仏教の世界観と深く結びついた存在です。目には見えなくても身近に感じられていたからこそ、こうした存在は数多く描かれてきました。

明治期には西洋文化の流入によって、油彩画の写実とは異なる、日本画ならではの筆遣いや墨遣い、色遣いで対象をより写実的にとらえる表現が広がっていきます。さらに昭和期には、それまでの題材や表現よりも、画家それぞれの感性や個性が強く表れるようになります。この変化のなかから、鯉や狸、猫、鶺鴒、鳩といった身近な動物たちが、より多く描かれるようになりました。

今回は三沢厚彦の彫刻作品と共に、作品が生まれた時代性にも想像をめぐらせつつ、描かれたアニマルやモンスターの姿をお楽しみください。



橋本雅邦《風神雷神》1895（明治28）年

【第4展示室】

第4室 アニマル&モンスター A-Z ～ 工芸

この展示室では、アニマル&モンスターをテーマに、壺や皿、着物などの工芸作品を紹介します。

身近な動物から伝説上の霊獣まで、工芸作品には多くの生きものがモチーフとして登場します。姿かたちや質感をそっくりに写し取ったり、あるいは形態を単純化して文様として配置したり、生きものはさまざまに表現されて人々の生活を彩ってきました。また、ときにそれらは生命力や霊的な力の象徴であり、願いを託す存在でもありました。

さて、作品のなかには、素材として生きものを利用した例もあります。象牙や鳥の羽毛、羊の毛皮、馬の尻尾、さらには鮫皮や昆虫から抽出した色素など、実にさまざまな生きものが工芸の多彩な表現を支えています。

一方で、工芸作品が生きものを装飾する関係もみられます。ここではジュエリーのような馬具や、刺繍ししゅうとパッチワークが施されたラクダの背カバーを紹介しましょう。

生きものをキーワードに多様な広がりを見せる、工芸の奥深い世界をお楽しみください。



清水南山《猫金具付 小児用手提》1939（昭和14）年

【ウェルカムギャラリー】

当館では、2021（令和3）年からウェルカムギャラリーを設けています。みなさまへの歓迎の気持ちと、「多くの方々の美術への誘いとなるように」との願いを込め、この場所を「ウェルカムギャラリー」と命名しました。当館の顔ともいえるべき大理石に囲まれた展示室で、美術への関心の度合いに応じて選べる作品解説をご用意しています。また、当館の成り立ちを紹介する動画を展示室の入口で上映しています。

ここでは、「これが、県美の広島愛」をテーマに、広島県ゆかりの著名作家である、洋画家のこばやしせんこ小林千古・みなみくんとあいつ南薫造・あひみつ燐光、日本画家のこだまきぼう児玉希望・おくだげんそう奥田元宋・ひらやまいくお平山郁夫、彫刻家のひらくしてんちゅうえんつばかつぞう平櫛田中・えんつばかつぞう圓鰐勝三、ろっかくしすい工芸作家の六角紫水・しみずなんざん清水南山・いまいまさゆき今井政之の作品を一堂に展示します。作家を育んだ広島という地域の特性や、作家の広島への想いを伝えるエピソードとともに、当館が誇る名品の数々をご覧ください。併せて、広島とゆかりのある洋画家のすがいくみ菅井汲の作品もご紹介します。

美術が好きな方も、これから好きになる方も、どうぞお気軽にお楽しみください。





【関連イベント】

■リレートーク

日時：2026年7月31日（金）15:00～（各室10分程度）

場所：2階展示室

講師：池田 彩夏（当館学芸員）、藤崎 綾（当館主任学芸員）、

隅川 明宏（当館主任学芸員）、岡地 智子（当館主任学芸員）

※要入館券、会場入口でお待ちください。

■インスタライブ配信

閉館後の展示室内からギャラリートークをライブ配信します。（約15分間）

① 1室 2026年8月18日（火）17:00～ 講師：池田 彩夏（当館学芸員）

② 2室 2026年9月 1日（火）17:00～ 講師：藤崎 綾（当館主任学芸員）

③ 3室 2026年9月15日（火）17:00～ 講師：隅川 明宏（当館主任学芸員）

④ 4室 2026年9月29日（火）17:00～ 講師：岡地 智子（当館主任学芸員）

公式インスタグラムはこちら



■リニューアルオープン 30 周年記念日

日時：2026年10月6日（火）

先着：30名

※事前申込不要

1968年に開館した広島県立美術館は、1996年10月6日にリニューアルオープンしました。

新館開館30年を記念して、30名の方に缶バッジを配布します。

■子ども向けワークシート

作品をじっくりと観察し、想像力を使いながら読み解いていくワークシートを配布します。

■参加型ワークショップ「みんなでつくるぬりえ動物園」

所蔵作品をもとにした動物たちのぬりえができます。みんなで貼りつけて動物園をつくろう。

■フリートークデー

8月16日（日）、9月20日（日）9:00～17:00

子供も大人も自由に感想を話しながら気兼ねなく展覧会を楽しんでいただけるよう、

フリートークデーを実施。当日は下記イベントも併せて行います。

フリートークデー

8|16日 9|20日

自由に感想を話しながら
展覧会を楽しもう！

●作品を探しに行こう！

当館所蔵品の一部がプリントされた缶バッジを配布します。どの作品がプリントされているか、展示室に作品を探しに行こう。

先着：30名



【媒体掲載用の画像提供について】

※いかなる場合も本プレスリリースからの転用はご遠慮ください。

※都合により出品作品が異なる場合がございます。ご了承ください。

※画像については提供が可能です。掲載の際に画像が必要な場合は、当館へお問い合わせください。

※画像掲載の際には、画像とテキストが掲載されたレイアウト原稿を事前に当館へ提出していただき、
1週間程度お時間を頂きます。ご了承ください。

※展示室内での筆記具の使用は鉛筆のみでお願いします。（ボールペンなど使用不可）

問い合わせ先

広島県立美術館

〒730-0014 広島市中区上幟町 2-22

TEL.082-221-6246 FAX.082-223-1444

E-mail iroeuma2@gmail.com

担当 学芸課 山下 寿水

総務課 広報担当 一色 直香

公式 SNS はこちらから

